

トラップ	B-10C 型バケットトラップ	呼び径 15～25	蒸気用
------	-----------------	--------------	-----

取 扱 説 明 書

- この取扱説明書は本製品の取扱担当者に必ずお渡しください。
- この取扱説明書の全部又は一部を無断で複写・転載することを禁じます。
- この取扱説明書の内容は予告なしに変更する場合があります。

目 次

1. 特徴	p. 1
2. 構造	p. 1
3. 取付け要領	p. 2
4. 分解・組立方法	p. 2
5. その他注意事項	p. 3

フシマン株式会社

東京本社 〒140-0011

東京都品川区東大井2-13-8 ケイビン東大井ビル2F

TEL 03-5767-4200 (営業部代表)

FAX 03-5767-4181

大阪支社 〒577-0801

大阪府東大阪市小阪2-10-14

TEL 06-4308-8805

FAX 06-4308-8807

●はじめに

この度は、フシマン製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。フシマンは長年の販売実績と優れた技術力で、信頼性の高い、品質の良い製品をお客様にご提供します。

この取扱説明書は、本製品を安全かつ正確にご使用いただくための取り扱い方法を説明しています。本製品を使用する前に、必ずこの取扱説明書をご一読ください。また、お読みになった後は、お取り扱いされる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

●安全上の注意

本製品を安全に使用するためには、正しい設置と運用、さらに適切な保守・点検が不可欠です。この取扱説明書に示されている安全に関する注意事項を読んだうえで、十分に理解してから作業を行ってください。

ここに示した注意事項は、使用に際して人的危害や物的損害を未然に防止するためのものです。この取扱説明書では、誤った取り扱いによって生じる可能性のある危害や損害の程度を「警告」と「注意」に区分しています。いずれも、安全に関する重要な内容ですので必ず守ってください。

表 示	意 味
 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定される。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が軽い又は中程度の傷害を負う危険性が想定される、又は物的損傷・損壊の発生が想定される。

次の安全上の注意事項にご留意ください。

 警告
<ul style="list-style-type: none">● 配管に取付けたまま分解する場合は、最初に配管ラインの圧力を遮断し、必ず配管圧力を抜いてください。また、温度が高い場合は常温に下げて、流体が漏れても危険がない状態にしてから実施してください。
 注意
<ul style="list-style-type: none">● 取付は水平配管に、弁箱の流れ方向矢印を流体の流れ方向に合わせて、なるべく垂直に取り付けてください。大気開放の場合は図2のように配管し、また、復水回収管に接続する場合は配管工事後の配管ブローのときのために図3のようにバイパス管を設けて下さい。● 配管に接続の際、過剰なねじ込みは避けてください。弁箱が破損する可能性があります。● 組立の際、弁座をふたにねじ込むときは、レバー支持金具の穴に確実に弁座の段部が嵌まっていることを確認して、ねじ込んでください。このとき、液体ガスケットをレバー支持金具両面の当り面に塗ってください。● 組立の際、E形止め輪やばね輪は、ぴったり嵌まっていることを確認してください。● 組立の際、ふたにレバーやバケットを取り付けて弁箱にのせます。このとき、バケットが外れやすいので注意が必要です。弁箱入口側のふたの端を少し持ち上げると、バケットの釣り金具がレバーに確実に

引掛かっているか否かが容易に確認できます。(図4)

- バケツトラップは凍結すると弁箱が破損するおそれがありますから、凍結しない場所で御使用ください。
- トラップから二次側配管に蒸気漏れがあるとき、原因は弁体・弁座の摩耗のほか、バイパス弁の漏れが考えられますから、バイパス弁を点検することをお勧めします。

●開梱および製品の確認・保管

開 梱 時 の 確 認	<ul style="list-style-type: none">○ 製品以外の異物が入っていないか。○ 製品に破損や損傷は見られないか。○ 附属品がある場合はきちんと揃っているか。
仕 様 の 確 認	<ul style="list-style-type: none">○ 型式・口径・使用圧力等が仕様と合致しているか。
保 管 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none">○ 弁箱出入口の防塵キャップは配管に取り付けるまで外さない。○ 配管に取り付ける場合は必ず防塵キャップを取り外す。○ 製品は屋内で保管する。○ 製品は納品時の状態で保管する。

ご不審な点やお気づきの点がありましたら、製品の銘板に記載された型式名及び製造番号をご確認のうえ、当社までお問い合わせください。

1. 特徴

下向きバケットトラップは寿命が長く、安定した間歇的作動を行い、ごみにも強いなどの特徴があり、広く使用されてきましたが、通気開始時の空気排出能力が低いために立ち上がりに時間がかかることが欠点でした。

B-10C型バケットトラップは、自動的に作動する強制空気抜き弁を内蔵して、空気排出能力を大幅に強化し、迅速な立ち上がりが可能になりました。

また、内蔵部品は全てステンレス鋼製ですから、耐久性は十分です。

2. 構造

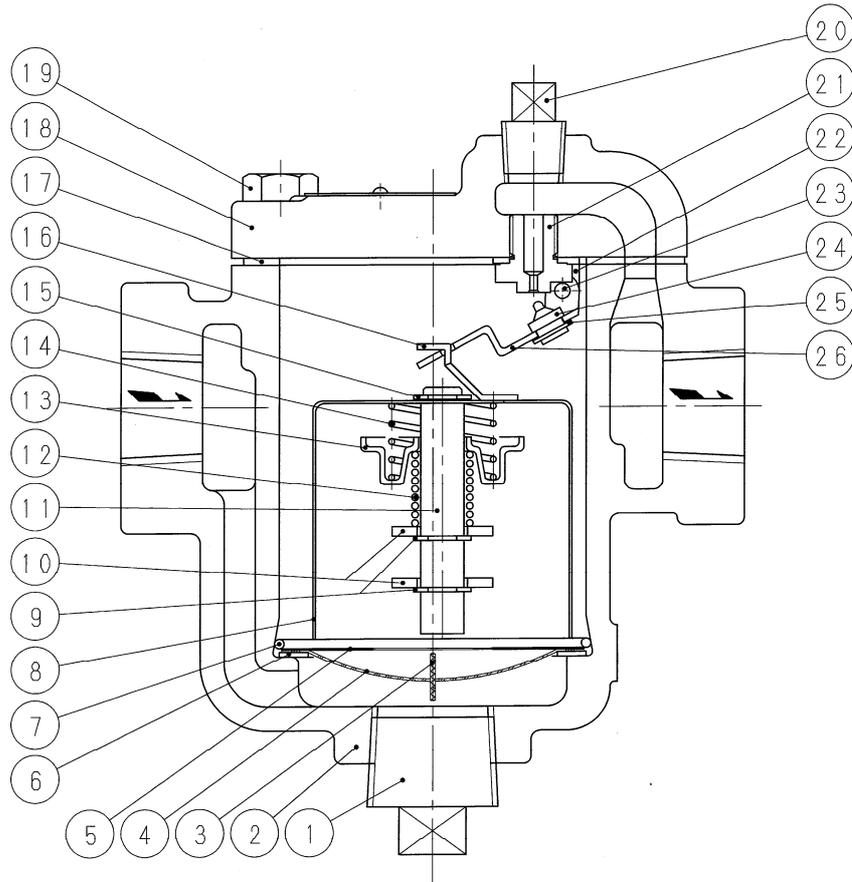


図1 構造図

表1. 各部の名称

部番	名 称						
1	プラグ	8	バケツ	15	E形止め輪	22	レバー支持金具
2	弁箱	9	E形止め輪	16	バケツ釣り金具	23	軸
3	スプリングピン	10	平座金	17	ガasket	24	弁体
4	ストレーナ	11	おもり	18	ふた	25	E形止め輪
5	隔壁	12	空気抜き弁ばね	19	六角ボルト	26	レバー
6	ガasket	13	空気抜き弁体	20	プラグ(1)		
7	ばね輪	14	バイアスばね	21	弁座		

注(1) 取り付けかない場合もあります。その際ふたのねじ穴加工もありません。

3. 取付け要領

⚠ 注意

- 3.1 水平配管に、弁箱の流れ方向矢印を流体の流れ方向に合わせて、なるべく垂直に取り付けてください。大気開放の場合は図2のように配管し、また、復水回収管に接続する場合は配管工事後の配管ブローのときのために図3のようにバイパス管を設けて下さい。
- 3.2 配管に接続の際、過剰なねじ込みは避けてください。弁箱(2)が破損する可能性があります。

配管工事後、最初のブローのときまたは季節初めの配管ブローのときには、トラップの入口止め弁を閉じてバイパス弁を開き、配管内の鉄屑、溶接屑、ごみなどの異物を十分にブローして下さい。その後、バイパス弁を閉じ、トラップ前の止め弁をできるだけゆっくり開きます。

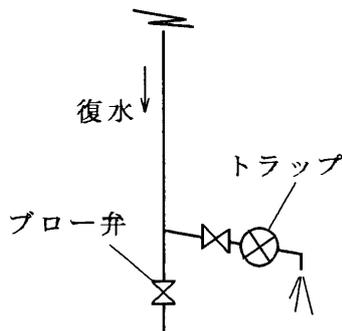


図2

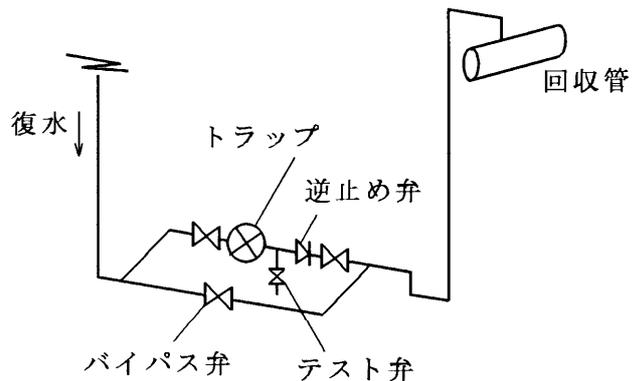


図3

4. 分解・組立方法

バケットトラップが作動不良になることはまれですが、多量のごみが入って来るとストレーナが詰まって復水の排出量が減少することが考えられます。また、長い年月の間には弁体や弁座が摩耗して、蒸気漏れが増すこともあります。このような場合にはトラップを分解して掃除したり、新品と交換する必要があります。

4.1 分解方法

⚠ 警告

配管に取付けたまま分解する場合は、最初に配管ラインの圧力を遮断し、必ず配管圧力を抜いてください。また、温度が高い場合は常温に下げて、流体が漏れても危険がない状態にしてから実施してください。

- (1) 六角ボルト(19)を外してふた(18)を引き上げます。レバー(26)やバケット(8)が一緒に上がってきます。
- (2) プライヤで、ばね輪(7)の直線部を掴み、抜き取ります。
- (3) ペンチでスプリングピン(3)の先端を掴んで引き上げると、隔壁(5)と共にストレーナ(4)が取り出せます。
- (4) ストレーナを掃除します。また、弁箱の底に溜っているごみを取り除きます。

- (5) 軸(23)を抜いて弁体(24)と弁座(21)の当り面を掃除します。特に弁体の当り面が摩耗していれば、弁体を交換します。E形止め輪(25)をドライバの先端でこじって外せば弁体を外せます。
- (6) 弁座(21)は、必要なら14平のスパナで外して新品と交換できます。
- (7) バケット内部の空気抜き弁回りを分解する必要は殆どありませんが、E形止め輪(15)をドライバの先端で外せば、空気抜き弁回りを取り出せて、空気抜き弁体とバケットの接触面を掃除できます。[(10)の平座金のうち、下側のものはバケットの重量調整用であり、ない場合もあります。]また、バケット天井の空気抜き小穴も掃除して下さい。

4.2 組立方法

⚠ 注意

- (1) 取り外したときと逆の順序で組み付けます。弁座をふたにねじ込むときは、レバー支持金具(22)の穴に確実に弁座の段部が嵌まっていることを確認して、ねじ込んでください。このとき、液体ガスケットをレバー支持金具両面の当り面に塗ってください。
- (2) E形止め輪やばね輪は、ぴったり嵌まっていることを確認してください。
- (3) 原則としてふたのガスケット(17)は新品と交換してください。ガスケットの両面にネバーシーズのような焼付き防止材を塗っておくと、再度分解するときに分解しやすく便利です。

⚠ 注意

- (4) ふた(18)にレバーやバケットを取り付けて弁箱(2)にのせます。このとき、バケット(8)が外れやすいので注意が必要です。弁箱(2)入口側のふた(18)の端を少し持ち上げると、バケット(8)の釣り金具(16)がレバーに確実に引掛かっているか否かが容易に確認できます。(図4)

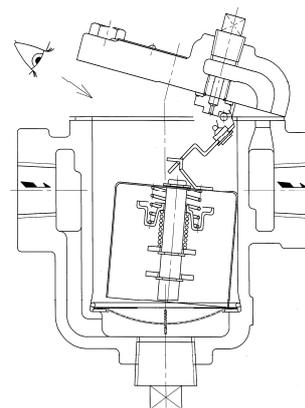


図4

5. その他注意事項

⚠ 注意

- 5.1 バケットトラップは凍結すると弁箱が破損するおそれがありますから、凍結しない場所で御使用ください。
- 5.2 トラップから二次側配管に蒸気漏れがあるとき、原因は弁体・弁座の摩耗のほか、バイパス弁の漏れが考えられますから、バイパス弁を点検することをお勧めします。